

-人の知覚も彷徨う-

ものの彷徨いと同時に、人がものを選択する際に伴う厳密さを考えています。俗に環境というものは多面的です。とある課題の原因を一つずつ抽出しようとするのは、現実的な自然さから離れると考えます。私たちは複合的に同時に、課題へと取り組むことが自然だと信じています。

幾つもの課題へと思考を巡らす際に、人はどこまで自分の思考のレンジを区別しているのか。真摯と不真面目の境目をどこまで区別して、人の判断は進行していくのか。人の判断も彷徨っています。

人の判断の彷徨いと、ものの彷徨いが交わるその領域で行われるやり取りの在り方を記述していくことが私の大きな目的の一つです。